

令和5年度・6年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実践



西之表市立種子島中学校

目次

I はじめに

- 1 西之表市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
- 2 学校の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |

II 研究の概要

- 1 研究の主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4 研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 5 租税教育の全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 6 租税教育年間計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

III 研究の実際

- 1 租税教室（令和5年度）1年生・2年生・・・・・・・・・・ 5
- 2 財政教育プログラム（令和6年度）3年生・・・・・・・・・・ 7
- 3 税に関する作品（作文・書道）について・・・・・・・・・・ | 0
- 4 統計グラフコンクールへの応募・・・・・・・・・・ | 3
- 5 税に関する書籍コーナー・・・・・・・・・・ | 4

IV 研究のまとめ

- 1 税に関するアンケートの結果及び考察・・・・・・・・・・ | 5
- 2 研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 7
- 3 今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 7

V 終わりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 7

I はじめに

1 西之表市の概要

種子島は日本の南西、九州の南部に位置する。豊かな自然に恵まれ、緑豊かな山々や美しい海岸線が特徴的である。西之表市は種子島の北西部に位置し、中種子町、南種子町と合わせての3市町からなる種子島の中で一番面積が広く人口も多い、島の中心都市で、広大な砂浜や透明度の高い海水が広がる地域である。西之表港や種子島空港からのアクセスも便利で、観光客に人気のエリアとなっており、訪れる価値がある魅力的なポイントとしては、美しいビーチやダイビングスポットなどが挙げられる。青い海と白い砂浜が広がる美



(西之表市 HP より引用)

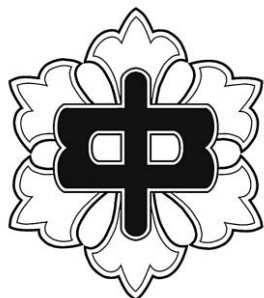
しいビーチでリラックスしたり、透明度の高い海でカラフルなサンゴ礁や魚たちを観察したりすることができる。また、西之表市周辺には海産物市場や地元の食堂などもあり、新鮮な海の幸を堪能することができる。自然と観光の魅力が融合した場所である西之表市は、訪れる人々を魅了すること間違いなしの地域である。

2 学校の概要

平成21年4月1日に6つの中学校（榕城・国上・現和・安城・古田・住吉）を統合して開校した本校は、西之表市唯一の中学校として16年目を迎えます。現在は県内離島で最も生徒数の多い中学校となり、生徒たちは互いに協力しながら様々な学習活動に日々取り組んでいます。

校区内には、10の小学校（立山は休校）があり、生徒は徒歩や自転車、スクールバス（6コース）で、市内全域から通学しています。それぞれの校区では、小学生や高校生とともに参加する行事や体験活動など、異年齢集団での活動が年間を通して盛んに行われており、本校を取り巻く教育活動の特徴として挙げるができます。

また、本校は熊毛地区の政治・経済・文化の中心地として栄える西之表市のほぼ中心にあり、種子島の玄関でもある西之表港にも近く、江戸時代には種子島氏の居城であった赤尾木城の城下として栄えた場所に位置しています。



◆校章の由来

西之表市の花「鉄砲ユリ」を基調に、輝く自然の中で、未来に輝く種子島中学校を象徴的に表しています。「中」の文字は市の蝶「ツマベニチョウ」で、6つの鉄砲ユリは統合した6つの中学校を示しています。

Ⅱ 研究の概要

Ⅰ 研究の主題

租税教育を通して、税に対する興味・関心を高めるとともに、社会を支える一人としての自覚をもち、2050年の種子島に貢献する意欲や態度を育成する。

2 主題設定の理由

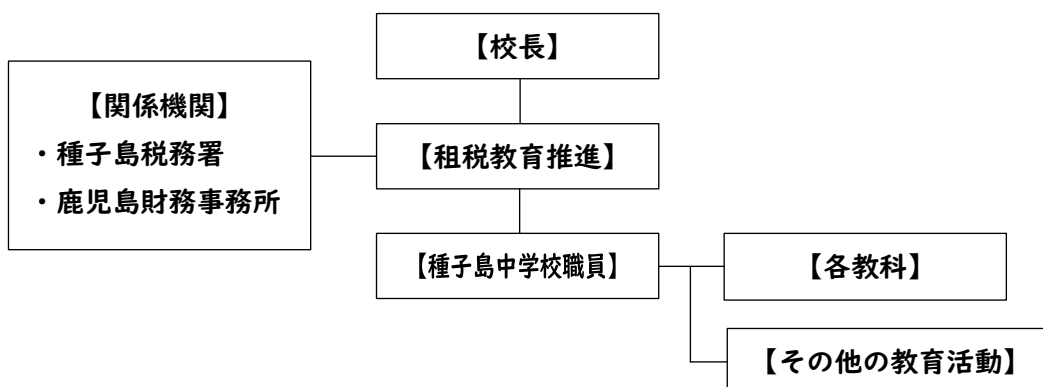
この研究主題を設定した理由は、種子島の豊かな特色や抱える問題等を背景に、租税教育を通して生徒たちが税に対する興味・関心を高めることが将来の社会を支える重要な要素であると考えたからである。

種子島の発展には税金が大きく関わっている。このような地域の特性を理解することで、生徒たちは社会の一員としての自覚を育むことができる。さらに、税に対する理解を深めることで、生徒たちは地域社会に貢献する意欲や態度を自然と身につけることが期待される。これにより、将来の納税者としての責任感を持ち、積極的に社会に参加する姿勢を育成することができる。租税教育は、単なる知識の習得にとどまらず、種子島の発展に寄与する人材を育てるための重要な教育活動であると考ええる。

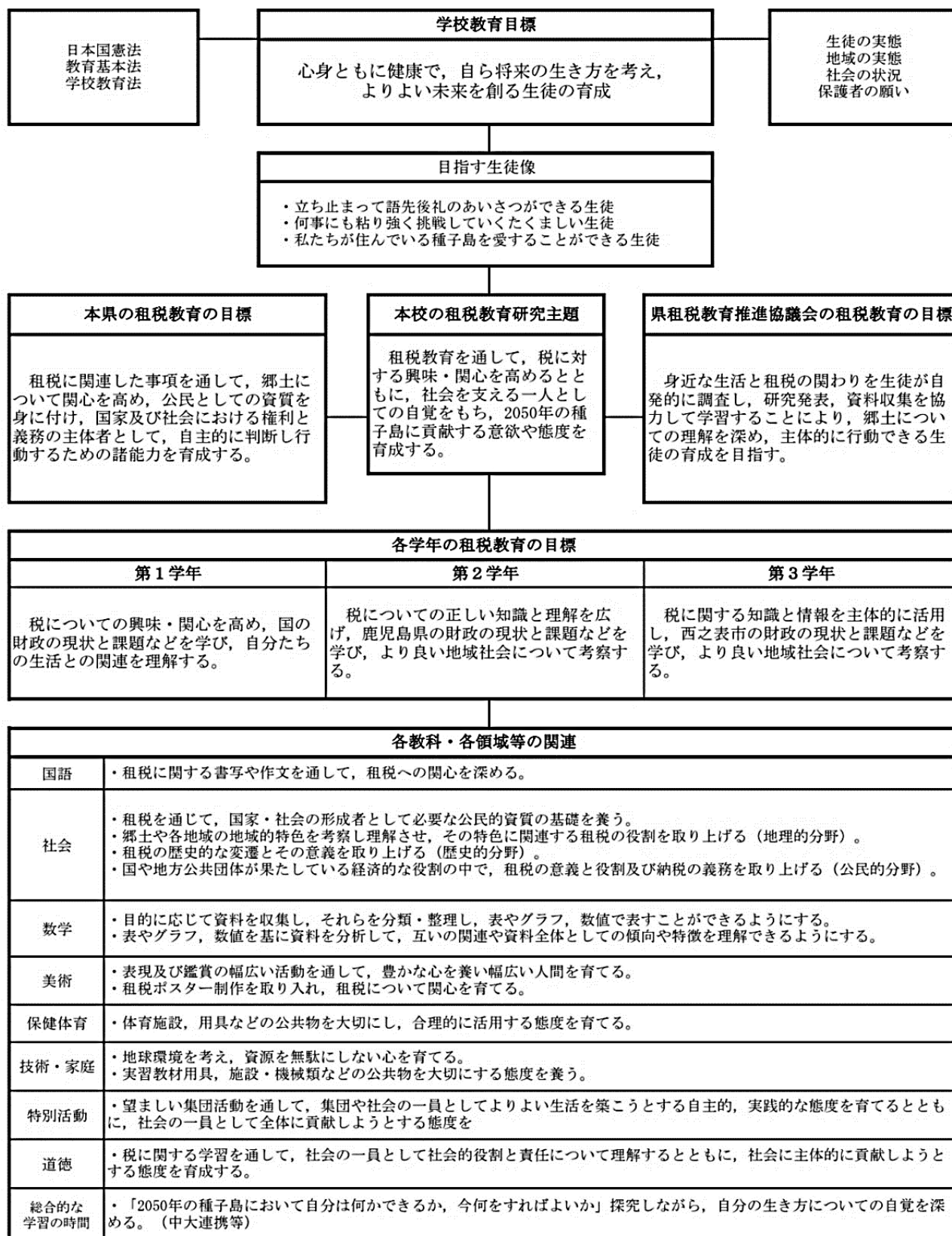
3 研究の仮説

租税教育を通して、生徒たちが税に対する興味・関心を高めることで、2年間のうちに税に関する知識が向上し、税の重要性を理解する生徒の割合が増加する。具体的に、租税教育を受けた生徒たちは、税金がどのように使われているかを理解し、税に対するポジティブな意識をもつようになると考えられる。これにより、将来の納税者としての責任感が芽生え、税に対する理解が深まることが期待される。また、地域社会の一員としての自覚が高まり、社会貢献意識が向上することが予想される。

4 研究組織



5 租税教育の全体計画



6 租税教育年間計画

(1) 1年目の取組（令和5年度）

4月	○租税教育研究委嘱状交付
5月	○研究主題・計画の立案
6月	○租税教育研究委嘱校についての共通理解（職員研修）
7～8月	○税に関する作品の募集・作成（作文・書道）
9月	○税に関する作品の応募（作文・書道）
10月	○税に関する書籍の購入
11月	○税に関する書籍コーナーの設置，紹介
12月	○税に関する作品の表彰（全校生徒に紹介）
1月	○税に関する作品の校内展示
2月	○租税教室の計画・準備 ○次年度の研究に向けて計画の修正
3月	○租税教室（1・2年生） ○研究のまとめ（1年目）

(2) 2年目の取組（令和6年度）

4月～5月	○令和6年度の計画の確認・準備
6月	○財政教育プログラムの計画・準備
7～8月	○財政教育プログラム（3年生） ○税に関する作品の募集・作成（作文・書道）
9月	○税に関する作品の応募（作文・書道） ○租税教育に関するアンケートの実施 ○租税教育研究冊子の作成
10月	○租税教育研究冊子の作成 ○「租税教育研究会」での発表リハーサル（職員研修）
11月	○「租税教育研究会」での発表
12月	○研究のまとめ（2年目）
1月～2月	○租税教育研究委嘱校としての取り組みの振り返り・まとめ
3月	○来年度の租税教育の計画・確認

Ⅲ 研究の実際

Ⅰ 租税教育

(Ⅰ) 令和5年度租税教室（1年生）

〔目的〕 租税教育を通して、税に対する興味・関心を高めるとともに、社会を支える一人としての自覚をもち、2050年の種子島に貢献する意欲や態度を育成する。

〔期日〕 令和6年3月5日(火)

〔対象〕 2年生（123名） 1年生（119名）

〔講師〕 種子島税務署 職員

〔内容〕 両学年とも活動の中心部分では、税金の集め方について、「公平」をキーワードに生徒自身が考え、話し合い等を通して考えを深めることができた。また、いくつかの実例を交えながら「公共サービス」や「公共施設」の提供に税金が使われていることを知り、身近な日常生活の中に、様々な形で税金が関わっていることを実感することができた。

◇活動の様子（1年生）



◇活動の様子（2年生）



◇ワークシート

国民の所得から
(1,000万を1万円)
円ではなく割合で(3割)
金を集める。

7-72 な税制とは何か考えよう

このクラスをたねがしま市と名づけます。さて、今度税金で新しい橋を作ることになりました。橋を造るのに1800万円かかります。橋を作るための税金をどうやって集めたらいいか考えてみましょう。

ワーク1 国民の所得は全員1000万円。なるべく公平に集めるには？

	所得	メモ	税金	残り
A	1,000万		300万	700万
B	1,000万		=	=
C	1,000万		=	=
D	1,000万		=	=
E	1,000万		=	=
F	1,000万		=	=
合計	6,000万		1,800万	4,200万

ワーク2 国民の所得は全員異なる。なるべく公平に集めるには？

	所得	メモ	税金	残り
A	2,500万	300×2.5	750万	1,750万
B	1,500万	300×1.5	450万	1,050万
C	1,000万	300×1	300万	700万
D	500万	300×0.5	150万	350万
E	300万	300×0.3	90万	210万
F	200万	300×0.2	60万	140万
合計	6,000万		1,800万	4,200万

理由

- ・皆から3割
- ・1000万を基準(1)として 0.5, 0.3, 1.8倍する。

11417ル

選挙...

議員は税金を払うべきと思う。

救急車は一度に4万円以上かかると...

少子高齢化により、増税。

⑤

1. Aに1800万
2. 上から3人
3. 皆に300万
4. 皆に割合
- 1, 2, 3は公平じゃない

〔感想〕

- ・ 税について詳しく知らなかったので，知ることができてよかった。税を何に使うのかよくわかった。
- ・ 収入の差によって税金が違ったり，他の国では救急車を使うだけでお金がかかったりすることを知った。税金には他にもたくさんの種類があると聞いたので調べたいと思った。
- ・ 税金を決めるときにちゃんと平等になるようにしているところがすごいと思いました。
- ・ 私たちが当たり前に使っている教科書や公共施設は，税によって作られていることを知った。感謝して大切に使いたい。
- ・ 税金は負担があるだけではなく，誰かの役にも立っていて，これからの自分にも役立つものであると思った。
- ・ 税金があると，公共の場やサービスを利用するときに払う金額が減るのがいいと思った。
- ・ 今までは税のことはあまりわかっていなくて，税金を払うのはいやだと思っていたけど，国の安定やいろんな人に役立っていることを知り，税の大切さを学ぶことができました。

2 財政教育プログラム（令和6年度）

〔目的〕 財政教室を通して，財政に対する興味・関心を高めるとともに，社会を支える一人としての自覚をもち，2050年の種子島に貢献する意欲や態度を育成する。

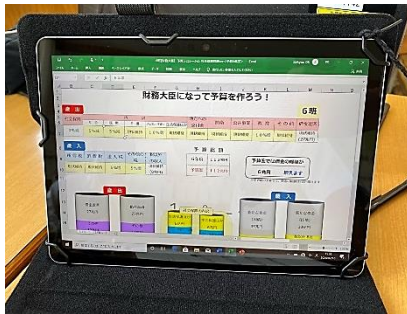
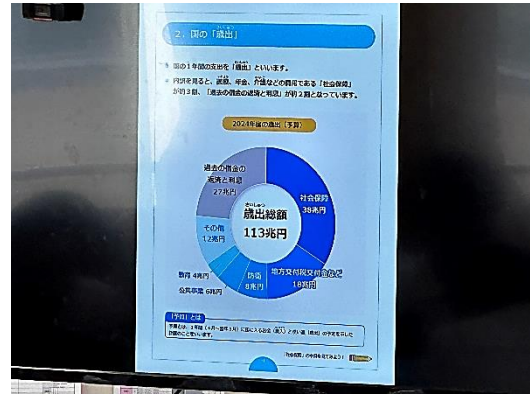
〔期日〕 令和6年7月16日（火）

〔対象〕 3年生

〔講師〕 九州財務局鹿児島財務事務所 職員

〔内容〕 初めに，財政の定義や国の歳入・歳出など，財政の概要について職員からの講義を受けた。その後は，講義で学んだことをもとに，ワークシートやタブレットを用いながら，国の予算案をグループワークによって考える活動を行った。実際に財務大臣になったつもりで，財政を担い，社会保障費や教育費，防衛費など，どの分野にどれだけの予算を配分するか，各グループで熟考する姿が見られ，発表の際はそれぞれで予算配分のテーマや目的が異なり，学びを深めることができた。

◇活動の様子



◇ワークシート

グループワークシート【財務大臣になって予算を作ろう！】

2. 班

1. 予算案のテーマを決めよう。（例）“高齢者に優しい社会”、“教育の充実” など

減税

2. グループで理想の予算を考えよう。グループで話し合った内容（増減した理由など）をシートに書き込みながら進めてください。

歳出予算

① 社会保障	合計 ※タブレットの結果をメモしよう
□増額 () % □現状維持 □減額 () %	
年金	
□増額 () % □現状維持 □減額 () %	
理由:	生活保護を減らすから。
医療	
□増額 () % □現状維持 □減額 () %	
理由:	削減しているから。
介護	
□増額 () % □現状維持 □減額 () %	
理由:	家族でまかなうから。
子ども・子育て	
□増額 () % □現状維持 □減額 () %	
理由:	少子化が進んでいるから。
生活保護ほか	
□増額 () % □現状維持 □減額 () %	
理由:	そのままで足りるから。

② 地方への交付金
□増額 () % □現状維持 □減額 () %
理由:
まぶさ市防部から。
③ 防衛
□増額 () % □現状維持 □減額 () %
理由:
そのままで足りるから。
④ 公共事業
□増額 () % □現状維持 □減額 () %
理由:
そのままで足りるから。
⑤ 教育
□増額 () % □現状維持 □減額 () %
理由:
そのままで足りるから。

⑥ その他
□増額 () % □現状維持 □減額 () %
(a) 科学技術研究
□増額 □現状維持 □減額
理由:
そのままで金使わなくていいから。
(b) 食料安定供給
□増額 □現状維持 □減額
理由:
そのままで足りるから。
(c) エネルギー対策
□増額 □現状維持 □減額
理由:
そのままで足りるから。
(d) 国際協力
□増額 □現状維持 □減額
理由:
自国の金が足りないのに、外国にまでお金を貸すから。

歳入予算

① 所得税
□増額 () % □現状維持 □減額 () %
理由:
そのままで足りるから。
② 消費税
□増額 () % □現状維持 □減額 () %
理由:
高いから。
③ 法人税
□増額 () % □現状維持 □減額 () %
理由:
そのままで足りるから。
④ その他の税収（ガソリン・酒・たばこなど）
□増額 () % □現状維持 □減額 () %
理由:
そのままで足りるから。

<社会保障内訳あり・歳出その他内訳あり>

グループワークシート【財務大臣になって予算を作ろう！】

14 班

1. 予算案のテーマを決めよう。(例)“高齢者に優しい社会”、“教育の充実” など

自立を高める社会

2. グループで理想の予算を考えよう。グループで話し合った内容(増減した理由など)をシートに書き込みながら進めてください。

歳出予算

① 社会保障・会計 ※タブレットの結果をメモしよう	
□増額()% □現状維持 □減額()%	
年金	理由: 年金が低いと、生きていけないから。
医療	理由: 高齢者が増えてくるから。
介護	理由: 0
子ども・子育て	理由: 余裕をもって安心して子育てをしてもらうため。
生活保護ほか	理由: 自立してもらうため。

② 地方への交付金	
□増額()% □現状維持 □減額(30)%	理由: 地域に住む人が減ってきているから。
③ 防衛	理由: 安全性を高めるため。
④ 公共事業	理由: 0
⑤ 教育	理由: いい人材を生み出すため。

⑥ その他	
□増額()% □現状維持 □減額(10)%	理由: 0
(a) 科学技術研究	理由: 0
(b) 食料安定供給	理由: 食料ロスなどが無駄になっているから。
(c) エネルギー対策	理由: 減額しても十分足りると思うから。
(d) 国際協力	理由: 今のままでも十分!!!

歳入予算

① 所得税	
□増額(5)% □現状維持 □減額()%	理由: 国のお金を安定させるため。
② 消費税	理由: 0
③ 法人税	理由: 0
④ その他の税収(ガソリン・酒・たばこなど)	理由: 0

<社会保障内訳あり・歳出その他内訳あり>

【感想】

- すごく分かりやすく、日本の財政について考えるきっかけになった。とても楽しかった。
- 日本の財政について知ったことで、これから自分たちがどのように社会と向き合い、動かなければならないのか考えることができた。
- 今日の授業で日本の借金は富士山の高さの2927倍ということを聞いてとても驚きました。また、今までは所得税など私たちに関係ないと思っていたけど、これから少しずつ考えていきたいです。
- 税収と歳出の2つの関係を学んで税金の大切さを知ることができ、よかった。日本の借金の危険さも知ることができたのでこれからも生かしていきたい。
- 私は、この授業を受けて、国の財政にとても興味がわきました。特に国の歳入と歳出の現状、それによる借金についてもっと知りたいと思いました。機会があれば、図書館などの本で学んだり、講義を聴いたりしたいです。
- 財政のことについて知ることができた。予算案を考えるときは、テーマにそって考えることができたのでよかった。また、友達の違う意見をきくことで、より深く考えられた。
- 日本の財政について楽しみながら学ぶことができた。もうすぐ18歳になり選挙権がもらえるので選挙のとき立候補者が財政についてどう考えているのかを知った上で投票し、自分と財政には関わりがあると考えて行動していきたい。

3 税に関する作品（作文・書道）について

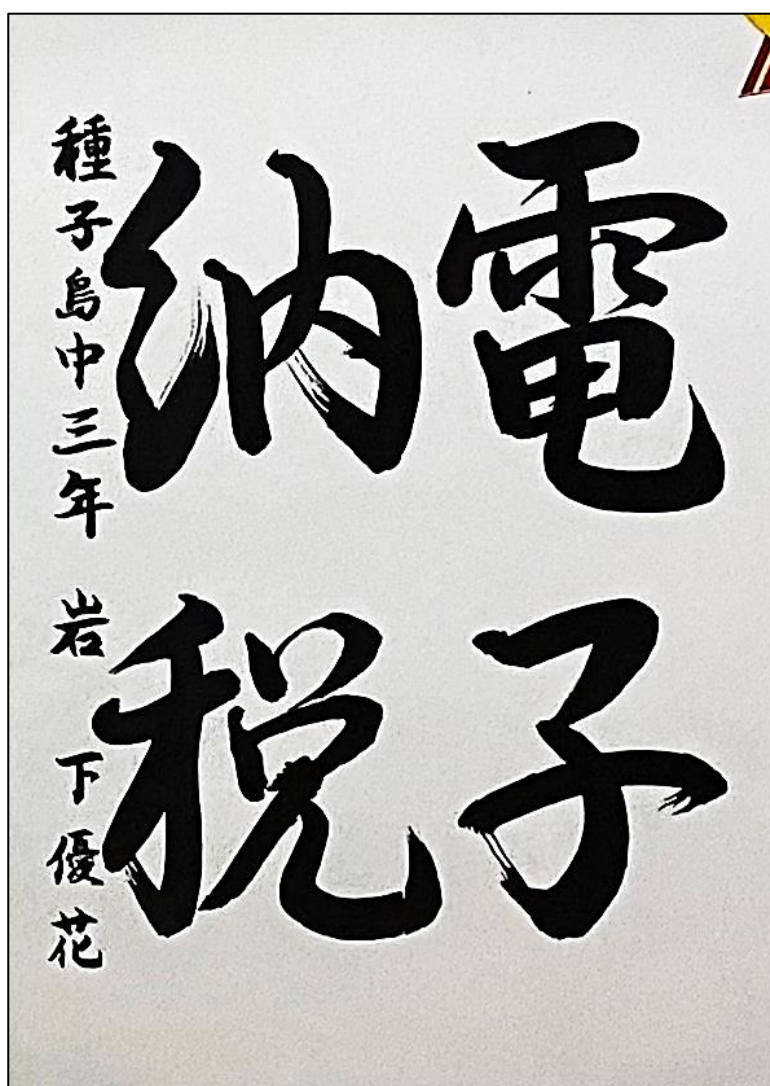
令和5・6年度ともに、夏休み課題の一環として、社会科から3年生を対象に「税に関する作文」、国語科から「税に関する書道」を選択制で出題し作品応募を行った。

令和5年度は、「税に関する作文」で、熊本国税局長賞や種子島税務署長賞、種子屋久納税貯蓄組合連絡会会長賞、「税に関する書道」で、種子島税務署長賞や種子屋久納税貯蓄組合連絡会会長賞など、双方で数多くの賞を受賞することができた。また、令和6年度には、「税に関する作文」への応募が3年生以外の学年からもあったり、「税に関する書道」を選択して応募する生徒数が増加したりと、生徒の税に対する関心の高まりが形として現れた結果となった。

以下では、令和5年度の入賞作品をいくつか紹介する。

◇「税に関する書道」

令和5年度種子島税務署長賞受賞！！ 岩下優花さんの作品



「楽しく学ぶを支える税」

3年 赤木梓音

「何のために勉強するか。」

口に出すことはなくても、よく考えてしまう。私にとって勉強は楽しいものではなかった。なぜ義務教育というものが存在し、「税金」がどのように関わっているのか、この夏深く考えさせられた。

中学3年生、義務教育最後の一年であるとともに、卒業後の進路について考えなければならない大切な時期だ。私は県内でもレベルの高い普通科の学校を希望している。先述の通り、私にとって勉強は楽しいものではない。しかし、もっと「学びたい」と思うきっかけがあった。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」9年間、毎日手にした教科書の裏表紙には必ずこの言葉が記されていた。教科書だけでなく、校舎・机・いす・タブレットなど、学校にあるほとんどの物は税金によって整えられている。なぜ、こんなに多額の税金が私たちの「学び」のために使われているのか。この答えこそが、教科書に記された言葉だと思う。学校へ行きの友達と会い、勉強する。私たちにとってはあたりまえのことだが、実はこれはとても幸せなことであって、あたりまえではない。さまざまな事情で世界には「学びたくても学べない」子どもが大勢いる。そのような子どもたちにとって貴重な「学び」を私たちが「楽しくないから」という理由で適当に扱ってしまっては良くない。税金によって整えられた環境を最大限に活用し、感謝の気持ちを持って学ぶ。自分の興味・関心を追求し、未来の社会に生かそうとする。学びに楽しさを見出し、たくさんの人に共有する。さまざまな形で学び、将来は納税者として、日本だけでなく全ての国で平等に「学びの場」ができれば良いと思う。

私は今後、残りわずかの義務教育で、税金のおかげで学べるありがたみをかみしめ、「楽しい学び」を通して、友達と切磋琢磨し合いながら未来の日本を担う立派な大人、納税者へと成長していきたい。全ての学びは無駄にならない。まだまだ続く学生生活の中でたくさんの知識をつけ、大人の期待や希望に応えられるような人になりたい。税金は回る。税金で成長し、税金で未来の担い手を育てるこの輪を広げ、明るい社会を自分たちの手で作っていききたい。

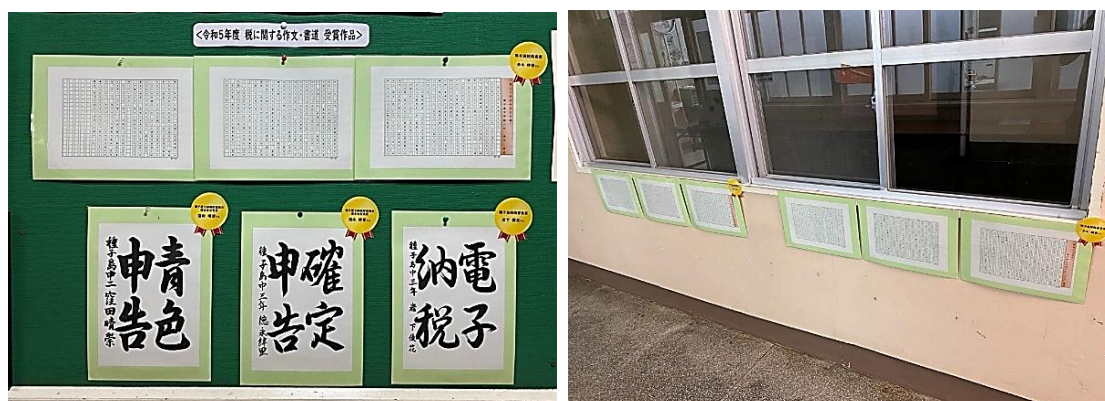
たくさんの「学び」が詰まったかばんは今日もずっしりと重い。お金の重み。税金の重み。そして、全ての人への感謝の重み。学ばせてくれて、ありがとう。この幸せな重みが感じられるのもあとわずか。空はすっきりと晴れ、学びに向かう足取りは軽かった。

令和5年の12月には、種子島税務署長が来校し、税に関する作品の表彰式を全校生徒参加の中、開催した。また、正面玄関や廊下等に作品を掲示し、全校生徒にも受賞作品を紹介した。以下はその様子である。

◇表彰式の様子



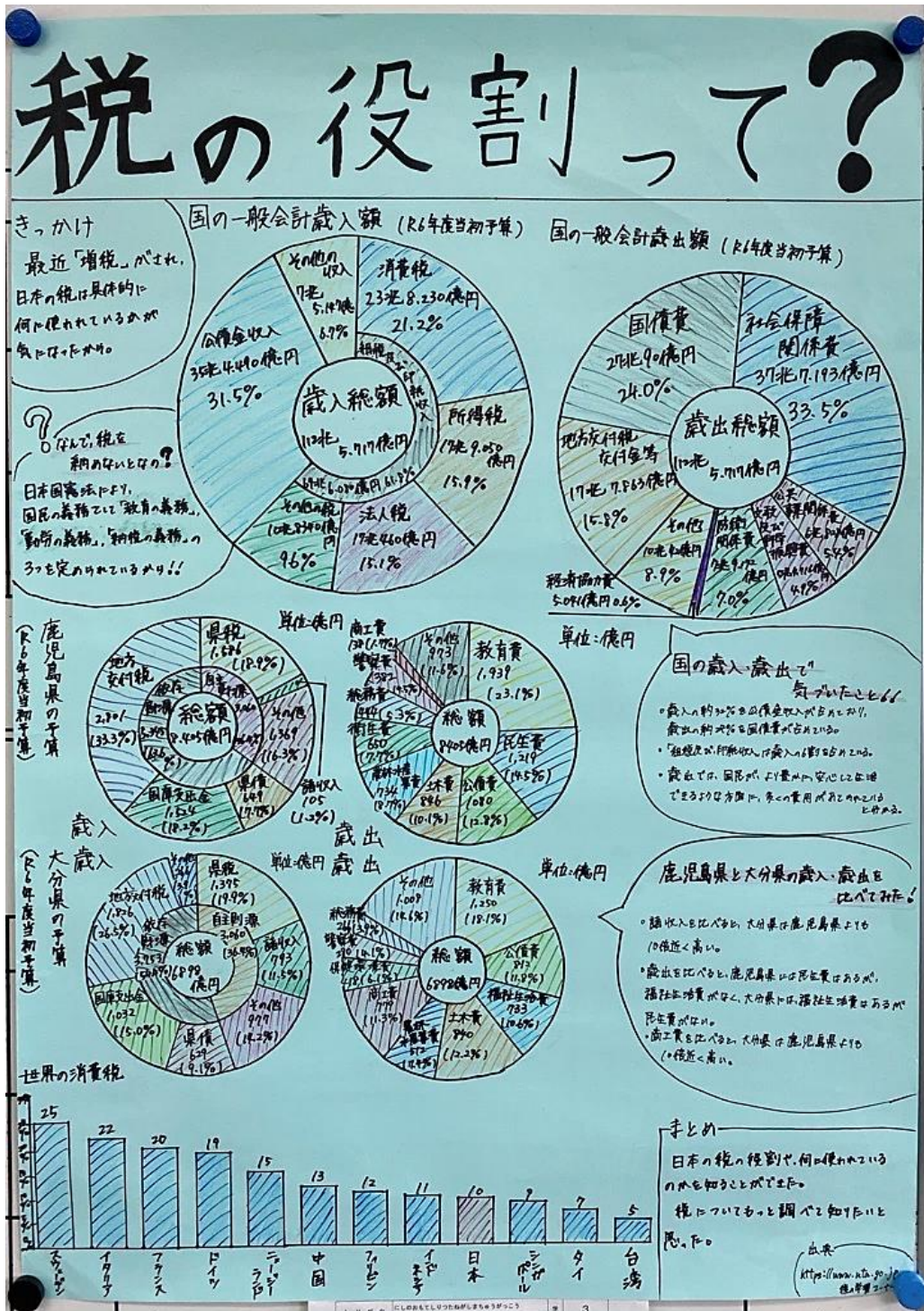
◇作品掲示の様子



4 統計グラフコンクールへの応募

令和6年度には、夏休み課題として数学科が近年実施している、統計グラフコンクールにおいて、税をテーマにした作品での応募があった。昨年は税に関するテーマの作品はゼロであったが、租税教室や財政教育プログラムの受講、他作品の応募などを通して、知り得た知識や抱いた疑問などをもとにこのような作品を制作する生徒がいたことは、取組の成果があったと言える。

◇統計グラフコンクールにおける生徒の作品



5 税に関する書籍コーナー

令和5年度には、税に関する書籍を複数購入し、生徒会図書部が中心となって、図書室に「税に関する書籍コーナー」の設置を行った。図書室の一角に大々的にコーナーを設けたことで、租税教室や財政教育プログラム後は特に生徒が読み込む姿が見られた。授業で学んだ内容以上の、税金の細かな仕組みや種類、生活との関連性などを知ることができたという生徒の意見もあり、税についてのより深い理解につなげることができたのではないと思う。

以下の写真は、コーナー設置や書籍を読む生徒の様子である。

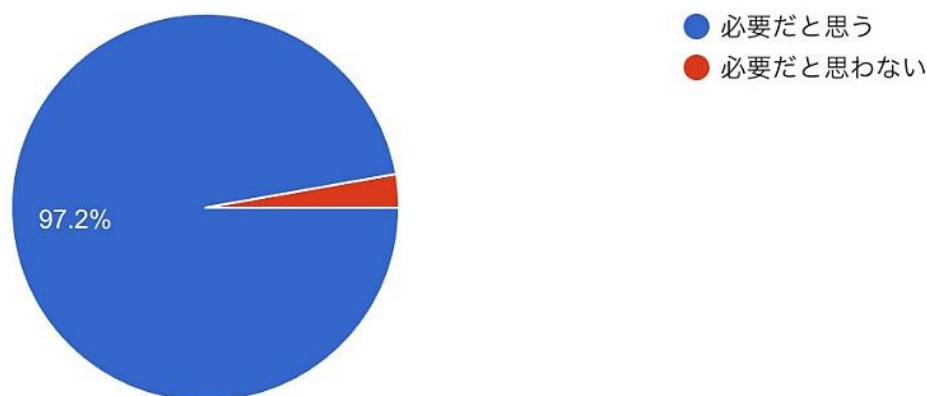
◇税に関する書籍コーナーの設置や生徒の様子



IV 研究のまとめ

I 税に関するアンケートの結果及び考察

- ① 租税教室や財政教育プログラム，税に関する作品への取り組みなどを通して，世の中に「税」は必要だと思いますか。



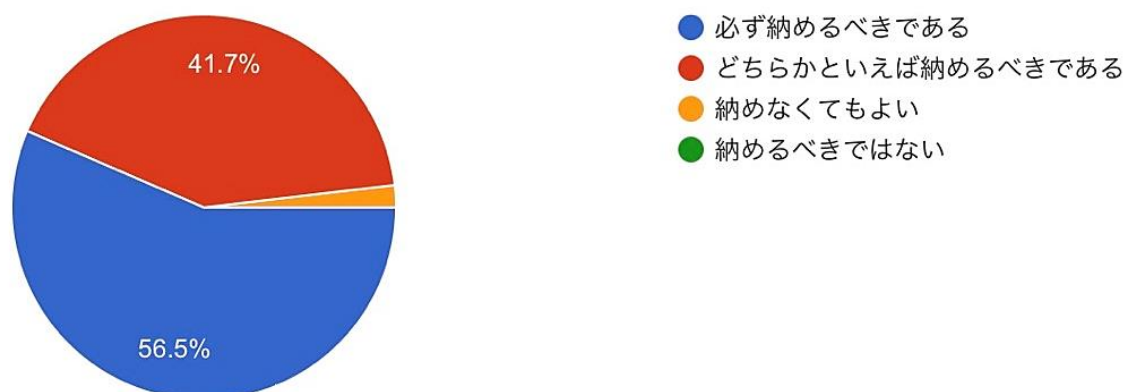
○「必要だと思う」の理由

- ・税があることにより暮らしが豊かになっていると思うから。
- ・みんなが平等に公平に生きていくため。
- ・税を利用して教育や公共施設などが支えられているから。 など

●「必要だと思わない」の理由

- ・自分たちが支持していなかった政治家たちの給料になってしまうから。
- ・必要以上の税金は納めない方がいいと思うから。 など

- ② これまでの学習を通して，税金は納めるべきものだと思いますか。



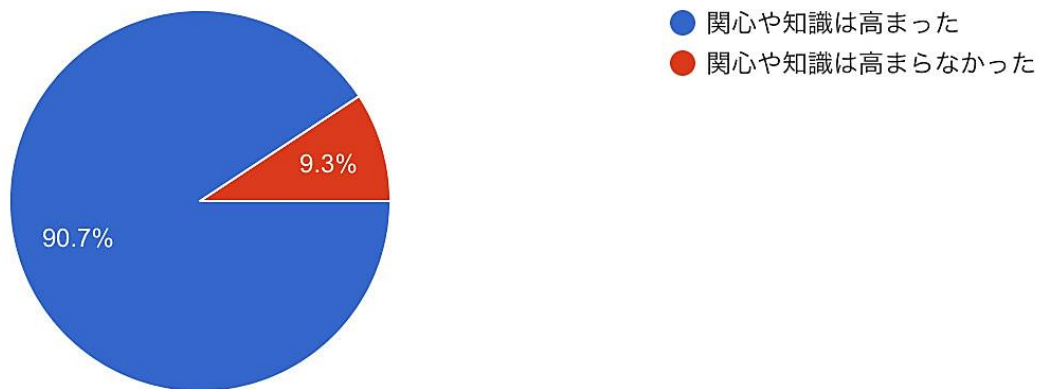
○「必ず納めるべきである」「どちらかといえば納めるべきである」の理由

- ・納めないと捕まるから。損していると思っても結局は自分のためになるから。
- ・公共の場など，みんなが使うところで税が使われているから。
- ・今，私たち自身も税に支えられていることを実感しているから。 など

●「納めなくてもよい」「納めるべきではない」の理由

- ・意味がないと思うから。 など

- ③ 租税教室や財政教育プログラム、税に関する作品への取り組みなどを通して、「税」についての関心や知識は高まりましたか。



〔考察〕

税の必要性を実感したり、納税意識が芽生えたりした生徒が多数を占める結果となった。理由としても、学習した知識を用いて答えられているので、これまでの取り組みの成果が表れていると考えられる。しかし、少数ではあるが、否定的な回答を行った生徒もいるので、このような生徒が税に関しての知識を高め、肯定的な印象をもつことができるような教育活動を継続的に行っていかなければならない。また、今後生徒が社会に出ていく中で、確実に納税者としての義務を果たしていけるよう、「税」についての関心を高めさせる努力も行っていかなければならない。

- ④ 西之表市で、税金はどのように（どのようなことに）使われるべきだと思いますか。

- ・道路の整備，中学校のグラウンドの改修工事，市営グラウンドの改修工事
- ・ショッピングモールが必要。
- ・空き家を住むことができる家へとリフォームする。
- ・便利になるよう物流（船や飛行機など）をよくして，商品を豊富にしてほしい。
- ・観光地の整備だったり，呼びかけを行ったりする。
- ・病院の設備を整えたり，治療費をまかなったりする。
- ・市民のため，市や種子島のために頑張っている人に使われるべき。 など

- ⑤ 「税」について今後も学ぶとしたら，どんなことを知りたいですか。もしくは，どんな活動を行いたいですか。

- ・税金対策 ・税理士について ・西之表市の税がどのように使われているか
- ・税に関するマスコットキャラクター ・税を納めなかったらどうなるのか
- ・確定申告について ・税について実際にできるような活動の計画を立てる

〔考察〕

④の質問では，本市や本島の問題にしっかりと着目した意見が多数あった。これまでの取り組みを通して，税金が自分たちの生活に根付いていることを学習できたことがこのような意見につながったのではないかと考えられる。また，⑤でも，数

多くの多種多様な意見があがっていて、㊦で示されているような、「税」についての関心や知識の高まりがこのような結果につながったのではないかと考えられる。

2 研究の成果

- 租税教育を通して生徒たちの税に対する興味・関心を高めることができ、また、2年間のうちに生徒の税に関する知識の向上、税の重要性を理解する生徒の育成を図り、結果として表すことができた。
- 地域社会の一員としての自覚を高め、地域が抱える課題と税金での取り組みを関連付けて考えさせることで、社会貢献意識を向上させることができた。
- 夏休みの税に関する作文や国語科の書道作品、数学科の統計グラフコンクールなどへの取り組みを通して、生徒に税は身近なところで役割を果たしていることを認識させ、自分事として捉えさせることができた。その中でも、令和5年度には税に関する作文において、熊本国税局長賞という荣誉ある賞を受賞することができた。

3 今後の課題

- 関係機関に依頼しての特別授業をより多く開催し、租税教育に関する活動を充実させるべきであった。
- 各教科と連携して、税に関する授業を綿密に計画することで、教科横断的な租税教育活動を行うべきであった。
- 今回の取り組みでは、生徒会図書部と連携しての「税に関する書籍コーナー」の設置を行ったが、今後はその他の生徒会専門部とも連携して、税に関する校内掲示の充実や活動などを幅広く行っていきたい。
- 本校では、ここ数年、租税教室自体を開催していなかったもので、今回、租税教育研究委嘱校の指定を受けたことを契機として捉え、来年度以降も継続して開催していきたい。

V 終わりに

今回、「租税教育を通して、税に対する興味・関心を高めるとともに、社会を支える一人としての自覚をもち、2050年の種子島に貢献する意欲や態度を育成する。」を研究主題として設定し、2年間の長期にわたり研究実践を行ってきた。

計画段階で難航することもあったが、租税教室や財政教育プログラム、その他諸活動への取り組みを通して、生徒の税に対する興味・関心を高め、楽しく、そして、当事者意識をもちながら学びを深めることができた。今回出た成果と課題を踏まえて、今後も租税教育活動を充実させ、生徒が将来、「納税の義務」を確実に果たしながら、社会の一員として地域社会に貢献していけるよう育成していきたい。

最後に、このような研究の機会を与えてくださった鹿児島県租税教育推進協議会様をはじめ、本校の研究実践に際して、丁寧な御指導・御協力を賜った、種子島税務署様や鹿児島財務事務所様、その他関係機関の皆様には心から感謝申し上げます。